

平成29年度 瀬戸内海研究フォーラム in 京都

川と海のつながりが育む 豊かな文化と生態系

開催結果の概要（平成29年9月6日～7日）

趣旨

瀬戸内海は、海域に面している地域の人々だけでなく、流域の内陸地域に住む人々と一体となって保全することが不可欠です。しかしながら、内陸地域の人々は、瀬戸内海の保全について意識を持ちにくい現実があります。このため、内陸地域と瀬戸内海との関わりについて様々な側面から協議することにより、本海域の保全に対する意識を高めることが重要です。

今回のフォーラムでは、瀬戸内海沿岸部と内陸部それぞれにおける生活・文化、汚濁負荷などの諸課題に焦点を当てるとともに、川を介した森や海そして人々の生業との連環、さらには類似の課題を抱える琵琶湖の生態系について議論することとしています。京都は、古来より衣食住や文化において水域と深い関わりを持ってきましたが、閉鎖性の強い瀬戸内海と琵琶湖を比較することで、共通の課題やそれぞれの環境保全における新たな展開を模索していきたいと考えています。

日程・場所

平成29年9月6日～7日 京都大学百周年時計台記念館2階 国際交流ホールⅡ・Ⅲ（京都府京都市）

主催・共催等

主催：特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議

京都大学大学院地球環境学堂

共催：瀬戸内海環境保全知事・市長会議

京都大学生態学研究センター

京都大学フィールド科学教育研究センター

総合地球環境学研究所

協賛：(公社)瀬戸内海環境保全協会

京都大学森里海連環学教育ユニット

後援：環境省、京都府、京都市、(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構

瀬戸内海研究フォーラム in 京都 運営委員会

運営委員長 藤井 滋穂（京都大学大学院地球環境学堂 教授、瀬戸内海研究会議理事）

運営委員 山下 洋（京都大学フィールド科学教育研究センター 教授）、

運営委員 中野 伸一（京都大学生態学研究センター 教授）

運営委員 阿部 健一（総合地球環境学研究所 研究基盤国際センター 教授）

運営委員 原田 英典（京都大学地球環境学堂 助教）

運営委員 岡本 侑樹（京都大学地球環境学堂 助教）

運営委員 嶋田 奈穂子（総合地球環境学研究所 研究基盤国際センター 研究員）

運営委員 横田 薫（京都府環境部環境管理課 課長）

運営委員 小原 孝浩（京都市環境政策局環境企画部環境指導課 課長）

9月6日（水） 開会式

瀬戸内海研究会の柳哲雄理事長、瀬戸内海環境保全知事・市長会議の議長である兵庫県より春名克彦氏（兵庫県農政環境部環境管理局長）の主催者・共催者あいさつに続き、環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室の山本郷史室長と京都府の中野孝男環境部長よりご祝辞を賜りました。また、フォーラム運営委員長を務められた、京都大学 大学院地球環境学堂の藤井滋徳教授より趣旨説明が行われました。



開会あいさつ



あいさつ



ご祝辞



ご祝辞



趣旨説明

第1セッション「都市をささえる景観：瀬戸内海国立公園から学ぶ」

◆コーディネーター

総合地球環境学研究所 教授 阿部 健一



◆講演テーマ

- ①「都市と周縁の関係ー京都から瀬戸内を考える」
奈良文化財研究所 研究員 恵谷 浩子
- ②「かやぶきの里から未来が見える」
南丹市美山観光まちづくり協会 まちづくり部 部長 高御堂 厚
- ③「人と自然の新たな物語ー想像力と構想力」
関西学院大学 教授 山 泰幸



◆内容

第1セッションでは、「都市を支える景観：瀬戸内海国立公園から学ぶ」をテーマに、社会的な見地から、さまざまな地方（じかた）の暮らしについて、京都、徳島、丹波を事例に、それぞれのスケール、それぞれの資源（人、モノ、景観、暮らし）を生かした取り組み、現況について紹介され、観光への取り組みや住民の認識、地域の民話の活用と再生、国立公園指定を受けての今後の取り組みなど、他の地域との比較や外国人観光客の誘致も含めた今後の方策や、暮らしの在り方について活発な意見交換が行われました。



第2セッション「環境保全・創造に関する研究・活動報告（ポスター発表）」

◆コーディネーター

京都大学 大学院地球環境学堂 助教 岡本 侑樹

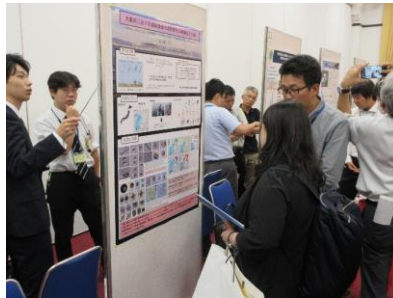
◆会場責任者

京都大学 大学院地球環境学堂 助教 原田 英典



◆内容

瀬戸内海周辺地域を対象とした環境保全や地域振興等の取組について、学生や研究者、民間団体等、様々な立場の26名の方に口頭発表とポスター発表をいただきました。



ポスター発表題目	発表者	所 属
揖保川流域における降雨時の窒素、りん負荷量の変動	古賀 佑太郎	(公財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター
琵琶湖・大阪湾における粒径315 μm～5 mmのマイクロプラスチックを対象とした微量有機汚染物質の含有量調査	鍋谷 佳希	京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻
大阪湾の流動・水質構造の現況と埋め立てに伴う変遷	中谷 祐介	大阪大学大学院工学研究科
琵琶湖の水質変動特性に及ぼす気候変動の影響解析	多鍋 耀介	大阪大学大学院工学研究科
下水処理場における電気分解を利用したリン回収に関する基礎的研究	高部 祐剛	鳥取大学 大学院工学研究科
Phosphorus Cycles at Oyster Culture on Spawning period in Northern part of Hiroshima Bay	Wahyudin	Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University
実測データを用いた瀬戸内海・四国南方でのpCO2時空間変動解析	林 美鶴	神戸大学 大学院海事科学研究科
流域連携による琵琶湖・淀川流域の難分解性有機物に関する調査検討	和田 桂子	(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構 琵琶湖・淀川水質浄化研究所
柑橘類果樹園地からの栄養塩類負荷特性と灌漑用ため池による低減効果 ー瀬戸内地方 重信川流域を例としてー	西村 文武	京都大学 大学院工学研究科
小規模下水処理場での嫌気性消化および消化汚泥の分解特性	日高 平	京都大学 大学院工学研究科
リモートセンシングを用いた大阪湾から紀伊水道への溶存有機物の流出経路の推定	田中佑一	京都大学 大学院農学研究科
UAVを活用した希少種ルイスハンミョウ保全のための取り組み	辻岡 雅啓	徳島大学 工学部
大阪湾における微細藻類休眠期細胞の種組成と分布	石井 健一郎	京都大学 大学院地球環境学学
琵琶湖南湖の抽水植物群落における貴重植物分布と特定外来植物材ハナズキノバイの拡大予測に基づいた重点監視区域の検討	高見 航	京都大学 大学院工学研究科
The forest-sea connection: Thinning timbers for maintaining forest enhance fish production in the sea	Jamaluddin Fitrah Alam	Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University
海底耕うんの効果事例について	宮川 昌志	香川県水産試験場
The linkages between forests, SATOYAMA, rivers and sea from habitat restoration of Japanese eel ニホンウナギ生息地の再生から見た森里川海の絆	Satoshi KAMEYAMA	Center for Environmental Biology and Ecosystem, National Institute for Environmental Studies, JAPAN
地域の宝を守る ～人工海浜とルイスハンミョウの保護～	矢野 司	徳島大学 工学部
香川大学直島地域活性化プロジェクト～2016年度の取り組み～	原 雄一朗	香川大学 経済学部
香川大学Bonsai☆Girls Project～2016年度の取り組み～	角野 真優奈	香川大学 法学部
香川大学小豆島SAKATEプロジェクト～2016年度の取り組み～	保 奈於	香川大学 法学部
留学生の視点から見る日本の世界農業遺産のイメージ分析 ー和歌山県みなべ・田辺世界農業遺産を事例にー	黄 琬惠	京都大学 学際融合教育研究推進センター 森里海連環学教育ユニット
国立公園内の小半島集落における土地利用状況と里山環境整備に関する考察 和歌山県田辺市島の巢半島集落の事例	加藤 彩季	京都大学 工学研究科
原始的な天然林集水域(長期モニタリングサイト)における毎木調査(6年に1度)の教育的意義	中島 皇	京都大学 フィールド科学教育研究センター
子どもの主体性を尊重した海辺の環境教育への取組と成果	榎谷 英樹	兵庫県立西はりま特別支援学校・兵庫県立大学
京都北山景観の文化的価値を支える森林保全の現状	高田 弥生	京都大学 大学院地球環境学学

9月7日(木)

第3セッション「生物生産からみた流域と沿岸域の相互関係」

◆コーディネーター

京都大学 フィールド科学教育研究センター 教授 山下 洋



◆講演テーマ

①「地下水と沿岸域生態系ー見えない水の役割を考えるー」

福井県立大学 准教授 杉本 亮

②「瀬戸内海東部における生態系構造の変化」

香川県水産試験場 主任研究員 山本 昌幸

③「流域の構造と水圏生物の生産」

京都大学 フィールド科学教育研究センター 教授 山下 洋



◆内容

瀬戸内海を中心に、若狭湾など多の事例も踏まえて、海底湧水の流入がもたらす水産物への効果や、森林から沿岸域への窒素供給、土地利用と溶存鉄の供給の関係、水産物におけるプランクトンなどの1次生産者の重要性や、栄養段階別の年代間の転送効率の変化に関する活発な議論がなされました。



第4セッション「豊かな生態系の琵琶湖との共生を探る」

◆コーディネーター

京都大学 生態学研究センター 教授 中野 伸一



◆講演テーマ

- ①「琵琶湖の水質保全の現状と新たな動き」
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 副部門長 早川 和秀
- ②「琵琶湖の底にあるちょっと変わった食物連鎖」
京都大学 生態学研究センター 教授 中野 伸一
- ③「水草の持続的利用による現代版里湖循環型社会の可能性」
滋賀県立大学 教授 伴 修平



◆内容

琵琶湖が抱える諸課題の変遷と現況について紹介した後、琵琶湖における一次生産者とは異なる、微生物を介した食物連鎖（細菌から原生生物）の発見と重要性について、最新の知見を提供するとともに、水草の有効利用に向けた新たなバイオガス利用の取り組みと里湖再生について発表され、瀬戸内海にも共通する課題や、研究や諸政策のアプローチの違いなど、多面的な議論が展開されました。



総括・ポスター賞発表・閉会

「川と海のつながりが育む豊かな文化と生態系」をテーマに2日間に渡って開催されたフォーラムの成果について、藤井運営委員長より総括が行われました。

また、若手・研究者を対象としたポスター賞として最優秀賞1名、優秀賞2名の受賞者を決定し、柳理事長より表彰を行いました。



◆最優秀賞

○琵琶湖・大阪湾における粒径 $315\mu\text{m}\sim 5\text{mm}$ のマイクロプラスチックを対象とした微量有機汚染物質の含有量調査

京都大学 大学院工学研究科都市環境工学専攻 鍋谷 佳希

◆優秀賞

○大阪湾における微細藻類休眠期細胞の種組成と分布

京都大学 大学院地球環境学堂 石井 健一郎

○留学生の視点から見る日本の世界農業遺産のイメージ分析 —和歌山県みなべ・田辺世界農業遺産を事例に—

京都大学 学際融合教育研究推進センター 黄 琬惠

最後に、瀬戸内海研究会議の多田邦尚副理事長（香川大学教授）より閉会あいさつを行い、フォーラム開催協力への御礼を申し上げるとともに、来年の「瀬戸内海研究フォーラム in 兵庫」への参加が呼びかけられました。

